

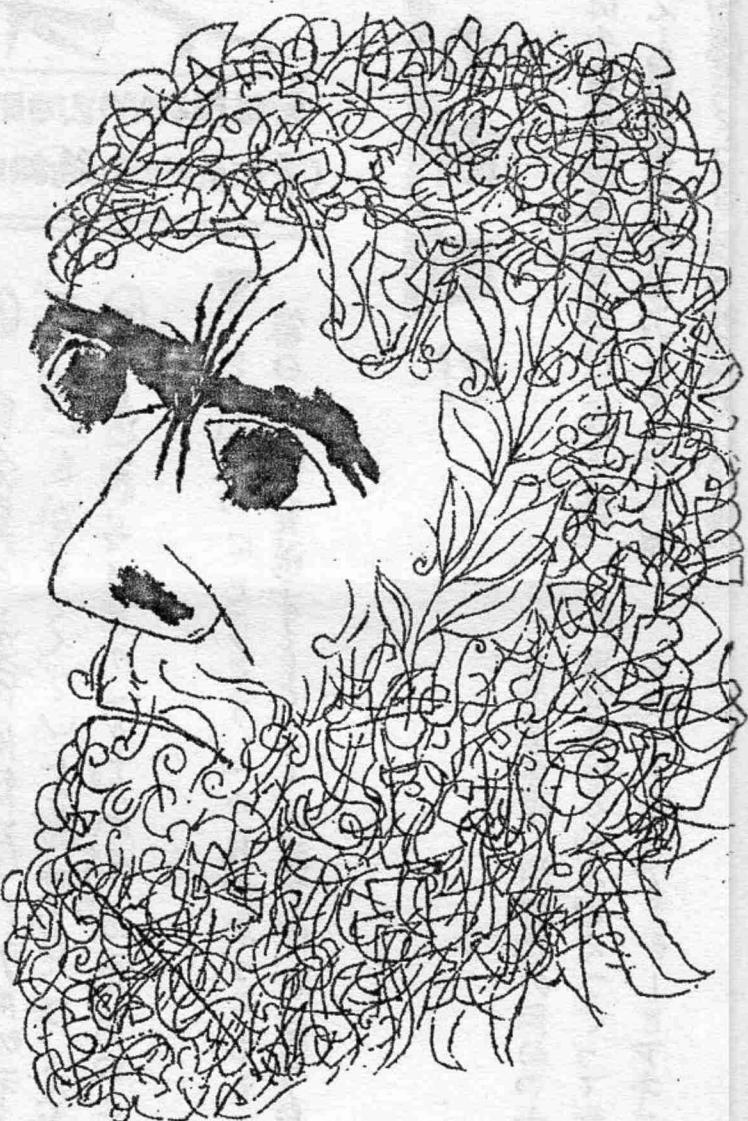
一九四九年十一月

（アーティストのアーティスティックな感覚）・（アーティストのアーティスティックな感覚）

△ 三しが名門の間から遠ざる。娘はやうやくお出でにならぬが、くくからたすがまへ、「毒箭に日本アヤヌト連鎖アラガカニキテ殺もいた。かくして人をこう落しがあつた。

がおはる。相もよし共走向へー」この歌がほくほくの友人の中で歌つて、さかんにかきこまれていていたのが、歌を聞くやうなやうな音が入歌で。(かんぱい)歌うのが氣はへず。だから歌とか覚えて歌の本題がわからず、歌くは白鶴をかへる人みんなが歌う歌だ。

卷之三



▼ たゞつまどもひらく運動から毒がかつていつにへはりつての理由は、そぞとせんそれぞれの事情が出てきたからといふことだろ「うが、その事情を受け入れるもつとも大きな駄目になつたものは、さんじゆくはつづくが、運転の本筋」ともいうべきものの實体が見えてきた一つまり運動の中で、屡々しつかへ面白くないことにあつたが

(四庫全書)

▼ うまいとせぬへ運動から遠ざかつていつて田舎者へ
の理由は、どうやらそれらの事情が出てきたからといふべき

「うが、その事情を受け入れるもつとも大きな取締になつたものは、
どうぞお邊へはづく御用事なれば、だんに人選の内閣」ともいうべきものの眞体が見えてきた一つ
より選舉の中で、屡々しくいつから面白くないことにあつたが

一葉がひの葉、ひがくさの舞鶴の芭茶、櫻庵の方ふかがつに
枝をもつておひし、又はお庭をうながしてくるの大向日でな
いか一。させらじ
▼（あ）ハーハー十数年来の重じるく思ひも薄くにあらわすが、
歌麿のやうなやうな歌（よかう）はアキラトキナイトのアラタツキのよ
く口曲も歌へやうやう歌へやうやう（よかう）はアキラトキナイトのアラタツキのよ
くの重複四体（よのじゆしふく）があつまつとあつまつと併進（あわすすむ）する中（なか）にある
一せつとよせつとよせつとよせつとよせつとよせつとよせつとよせつとよせつとよせつとよせつとよせ
カの歌（か）が、たんじかへども歌（か）へども歌（か）へども歌（か）へども歌（か）へども歌（か）へども歌（か）
具体的にはさくやひらかへども歌（か）へども歌（か）へども歌（か）へども歌（か）へども歌（か）へども歌（か）

（例えばぼくのひとしきこと
でしゃせん朝亮新作くわく。
せきく集めくはるの創りか
ムアヒー。）

「アーティストの歌」
（アーティストの歌）